

山形大学校友会理事会（第18回）議事録

平成27年6月24日（水）
15時00分～16時22分
山形大学事務局第1会議室

（議 題）

- 1 校友会副会長の選出について
- 2 校友会専門委員会委員の選出について
- 3 平成26年度事業報告及び収支決算について
- 4 平成27年度事業計画（案）及び収支予算（案）について
- 5 平成28年度以降の校友会「継続事業」の取り扱い及び事業評価方法等の検討について
- 6 山形大学校友会会則及び山形大学校友会専門委員会規程の一部改正について
- 7 企画検討ワーキングにおける「校友会設立10周年記念事業」の検討状況について
- 8 その他
 - (1) 「山形大学卒業生の皆さまへのアンケート」の開催について
 - (2) 卒業生の「人財バンク登録事業」の活用について
 - (3) 「山形大学卒業生若手の集い」について
 - (4) 「校友会メールマガジン」の配信状況について
 - (5) 平成27年度校友会関係年間スケジュールについて
 - (6) その他

（出席者）

会 長： 小山清人（議長）
理 事： 大宮孝治、丹野憲昭、長南邦彦、長沼龍平、木村康二、加藤丈夫、
佐藤和佳子、山崎洋一郎、齋藤博行、大場好弘、竹田隆一、栗山恭直、
山川光徳、神戸士郎、結城敏夫、岩城功希
監 事： 丸山俊明、寒河江良三

（欠席者）

理 事： 井上宏彦、阿部吉幸、角田正一、長谷部利信、國方敬司、松山裕城

（列席者）

小関エンrollment・マネジメント部長、鈴木 EM 企画課長、
大沼校友会事務局長、山口校友会事務局次長、渡部係員

議事に先立ち、小山学長から大学の現況や平成28年度に10周年を迎える校友会の活動状況等について挨拶があり、引き続き、新任の理事及び出欠状況について紹介があった。

（議題）

- 1 校友会副会長の選出について
議長から本件について提案があり、会則に基づく選出方法について説明の後、ふすま同窓会選出の長沼龍平理事（新任）と工学部選出の神戸士郎理事（再任）に副会長をお願いしたい旨提案があり、諮られた結果、承認された。

2 校友会専門委員会委員の選出について

議長から本件について提案があり、会則及び規程に基づく専門委員会の任務と選出方法について説明の後、資料2のとおり7人を指名したい旨提案があり、諮られた結果、承認された。

関連して、議長から、専門委員会の委員長は「委員の互選」になっており、本日の理事会終了後、新委員による専門委員会を開催して決定していただく旨説明があった。

3 平成26年度事業報告及び収支決算について

議長から本件について提案があり、事務局から、「平成26年度事業報告（個別表添付）（案）」及び「平成26年度収支決算書（案）」について資料3及び資料4に基づき概ね次のような説明があり、引き続き、丸山監事から監査報告（資料5）があった。

（内容）

- (1) 本件は旧委員による校友会専門委員会（以下、旧専門委員会という。5月28日開催）で審議いただき、すでに了承を得たものである。
- (2) 資料3は平成26年度事業25件の実施状況の概略を、個別の事業報告書に基づいて取りまとめたものである。
- (3) 実施事業のうち4件は、成果報告として席上回覧したのでご覧いただきたい。
なお、持ち帰りを希望される場合はその旨申し出願いたい。
- (4) 平成26年度の収入においては、一般会員の新規加入者が予測を下回ったため228千円程決算額が予算額を下回った。
- (5) 平成26年度の事業費として23,170千円を予算化したが、最終的には355万円程の執行残が生じた。
- (6) 「卒業生等による学生支援体制の整備（継続事業3年目）」については、校友会として訪問する同窓会支部数の増や東京サテライトでのOB&OGセミナーや各同窓会との情報交換会の開催経費の増があったことから、決算額が予算額を下回った。
- (7) 米沢工業会90周年記念事業や新入生に贈る記念品を作製経費は、予備費から支出した。
- (8) 運営費は総額400万円の予算に対して46万円程の執行残となった。
なお、印刷費については校友会会報を年2回発行したことによる経費増、会議費は東京在住の理事に係る理事会や専門委員会への会議出席旅費に充当したことによる経費増のため、決算額が予算額を下回った。

説明の後、議長から本件について諮られた結果、原案どおり承認された。

4 平成27年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

委員長から本件について提案があり、旧専門委員会大場委員から去る5月28日に開催された委員会における審議状況について次のような報告があった。

（内容）

- (1) 平成27年度の申請件数は、継続事業19件及び新規事業11件の合計30件で申請総額40,102千円となっている。
- (2) 事業計画の策定に当たっては、資料7の「平成27年度校友会事業計画の検討に当たって」の検討のポイントを基本として審議した。
- (3) 継続事業として認められた19件に係る採択金額は、前年度の実績等を勘案して計上したものである。
- (4) 新規に申請された事業10件については、事業区分のどれに該当するかを確認の上、事業の妥当性等を精査し採否と採択額を計上したものである。

- (5) 「国際理解のためのサマースクールの実施」については、昨年、全学的な広がりのある事業として展開されなければ、支援はむずかしい旨のコメントを付して採択通知を行っており、事業実績を踏まえて今回は不採択とする。
- (6) 専門委員会の審議結果を踏まえ、本日の理事会に提案することとした。

引き続き、事務局から、「平成 27 年度事業計画書提出一覧（個別表添付）」、「平成 27 年度事業計画（案）」及び「平成 27 年度収支予算書（案）」について、資料 6、資料 7 及び資料 8 に基づき概ね次のような追加説明があった。

(内容)

- (1) 平成 27 年度の予算については、会費収入は一般会員の加入 50 人を見込み 2,010 万円とし、繰越金 1,367 万円と合わせて総額約 3,379 万円となるが、運営費を含めた支出総額は 2,676 万円程度としたい。
- (2) 平成 27 年度の採択件数は、継続事業 19 件及び新規事業 10 件の合計 29 件とし、事業費総額は 23,220 千円としたい。
なお、運営費は前年度から 46 万円減の 354 万円としたい。
- (3) 事業採否の審議のため、旧専門委員会での意見等を踏まえ、各事業毎の申請額、前年度予算額及び採択額案を資料 7〈説明資料〉のとおり整理した。
- (4) 最終的な平成 27 年度事業計画（案）は、資料 7 のとおりである。
- (5) 「国立科学博物館『発見！体験！先端研究@上野の山シリーズ』企画～(No. 29)」は、国立科学博物館と山形大学との主催（米沢工業会共催）事業として、5/2(土)から 5/6(水)までに実施済みのものであるが、必要経費の一部を支援事業として認めたい。

説明の後、概ね次のような意見交換があった。

- 平成 27 年度収支予算書では、前年度と比べ繰越し額がかなりの減となっているように見えるが、何らかの方向性を決めて行っている対応か伺いたい。
(長南理事)
- ◎ あまりにも繰越し額が多い事態は会費そのものの妥当性にも関係し、これまでの理事会でも、適正な額まで繰越し額を減らす方向で対応してきた経緯がある。
(事務局)
- ◎ 数年前はあまりに繰り越しの金額が大きく、平成 25 年 6 月 11 日の理事会での決定に基づいて、校友会運営準備金として別途 2,000 万円を定期預金として積み立てている。〈収支予算書の欄外に表記。〉(小山会長)
- 「博士課程学生研究発表奨励事業」は大学院理工学研究科の学生だけが対象となっているが、山形大学には他の大学院博士課程もあり、この機会に支援の範囲を全学に広げてもらいたい。(加藤理事)
- ◎ 本件は大学院理工学研究科長からの申請であり、工学系と理学系の大学院学生のみを支援の対象としているが、今回は、他の博士課程研究科も含めて大学全体を対象とした事業として取り組みたい。(小山会長)
- 校友会運営準備金として 2,000 万円を積み立てしているが、あらかじめその使い方を考えておくべきではないか。(山川理事)
- ◎ 専門委員会において検討いただくこととしたい。(小山会長)
- 県内高校生が山形大学に入学する数がどんどん減っていると聞く。校友会の立場で県内の高校生や保護者に山形大学の魅力を伝える広報を行っていただけませんか。(山崎理事)
- ◎ このことは大学として取り組む課題だと認識しているが、校友会の立場からも何かできることがあれば取り組んで行きたい。(小山会長)

種々意見交換の後、議長から本件について諮られた結果、原案どおり承認された。

5 平成28年度以降の校友会「継続事業」の取り扱い及び事業評価方法等の検討について

議長から本件について提案があり、これまでの経緯等について次の2点について説明の後、事務局から資料9に基づき説明があった。

- (1) 本件は前回の理事会において、引き続き検討を行うこととしていたものである。
- (2) 資料9は、校友会事業について9つの考え方を整理したものである。
- (2) 5月28日開催の旧専門委員会において、「校友会事業についての考え方（整理メモ）」に基づき、若干の意見交換を行った。

説明の後、特段の意見等はなかったため、議長から、本件は次回の理事会で何らかの方向性を確認したいので、意見や要望があれば校友会事務局にお寄せ願いたい旨述べられ、継続審議とした。

6 山形大学校友会会則及び山形大学校友会専門委員会規程の一部改正について

議長から本件について提案があり、本年4月1日付けで本学教員の所属が学術研究院になったことに伴う一部改正であり、資料10のとおりとしたい旨述べられ、諮られた結果、承認された。

7 企画検討ワーキングにおける「校友会設立10周年記念事業」の検討状況について

議長から本件について提案があり、これまでの経緯等も含め企画検討ワーキング大場好弘座長から、資料11に基づき概ね次のような説明があった。

(内容)

- (1) 企画検討ワーキング（委員6名）を2回開催し、資料11は中間報告としてこれまでの検討状況を整理したものである。
- (2) 10周年記念式典は、平成28年11月下旬に小白川キャンパス構内で実施したいと考えている。
- (3) 記念事業は、記念講演会をはじめ9つぐらいの提案が出されている。
- (4) 記念式典及び記念祝賀会への案内は、120人程度を予定したい。
- (5) 記念祝賀会への参加は会費制とし、予算総額は300万円程度としたい。
- (6) 記念事業の実施に当たっては、学生もスタッフに加えることを考慮したい。

説明の後、次のような意見交換があった。

- 校友会10周年を記念して、記念誌というほどのものではないにしても、例えば女性卒業生の活躍を紹介する「記念報」等を発行してはどうか。（佐藤理事）
- ◎ 「記念報」の取り扱いも含め、企画検討ワーキングで引き続き検討してもらいたい。（小山会長）

意見交換の後、議長から本件については企画検討ワーキングにおいて引き続き検討してもらいたい旨述べられ、了承された。

8 その他

(1) 「山形大学卒業生の皆さまへのアンケート」の実施について

議長から本件について報告したい旨発言があり、事務局から、参考資料3に基づき、概ね次のような説明があった。

(内容)

- ① 校友会事務局から各同窓会支部総会に出席した際、その場に出席した卒業同窓生にアンケート用紙を配付し、記入してもらう手順としている。
- ② アンケートを実施することについては、事前に各同窓会会長や理事長に協力を仰いでいる。
- ③ アンケートは、次の3つのポイントからなっている。
 - ・ 山大生への就職支援又は応援いただける可能性について
 - ・ 山形大学での学生時代のことについて
 - ・ 校友会への入会状況とメールマガジン配信の希望について
- ④ なお、提出されたアンケート用紙は集計し、年度末ごろに何らかの形で報告することとしたい。

説明の後、次のような意見交換があった。

- アンケートはどんな形で配付されているのか分からないか、医学部医学科ではできるだけ多くの卒業生に山形県内で医師になってもらいたいと考えており、他の地域への医師の就職を勧めるようにも受け取られる可能性もあり、できれば「医学科蔵王会」という項目は外してもらいたい。(山川理事)
- ◎ これまで医学科の同窓会には出席していないのであまり心配はしていないが、そのような懸念もあるとすれば、とりあえず「医学科蔵王会」の項目は削除したい。(事務局)

(2) 卒業生の「人財バンク登録事業」の活用について

議長から本件について報告したい旨発言があり、事務局から、参考資料4に基づき、概ね次のような説明があった。

(内容)

- ① 本件は、山形大学の卒業生の中から“人財バンク”に登録願い、本学の学生に対して講演や相談・就職アドバイス等を担当いただくもので、昨年度からスタートしたものである。
- ② 初年度は卒業生5名を「人財バンク」に登録し、参考資料4による通知文書で募集したが、これを活用した学生支援事業への申請はありませんでした。
- ③ 本件は、今年度校友会支援事業に組み入れられており、人財バンクへの登録と学生支援事業の積極的な運用を図りたいと考えており、よろしくお願ひしたい。

(3) 「山形大学卒業生若手の集い」について

議長から本件について報告したい旨発言があり、事務局から、本件は昨年度からの課題でもあるが、今年度は校友会支援事業として積極的に取り組むこととし、当面、7月25日(土)に東京サテライトにおいて関東地域在住の山形大学の若手卒業生何人かと事前の打合せを予定している旨説明があった。

(4) 「校友会メールマガジン」の配信状況について

議長から本件について報告したい旨発言があり、事務局から、参考資料5に基づき、概ね次のような説明があった。

(内容)

- ① 昨年の7月から発行を開始した校友会メールマガジンは、現在、卒業生、在学生及び教職員など希望される600名を超える方々に配信している。
- ② メールマガジンでは、さまざまな山形大学の情報(山大トピックス、山大生ニュース、同窓会情報、イベント紹介等)を月1回お伝えしている。

- ③ 今年度は、「山形大学 2015 年度行動計画」において 1,000 名を超える方々にメールマガジンの配信を目標としており、本日出席されている理事の方で新たに配信を希望される方は「配信希望票」を提出いただきたい。

(5) 平成27年度校友会関係年間スケジュールについて

議長から本件について報告したい旨発言があり、事務局から、参考資料6に基づき、校友会関係年間スケジュールについて説明があった。

(6) その他

本日の審議を終え、議長から特段の意見や要望があれば伺いたい旨発言があり、次のような意見があった。

- 後援会選出の理事として理事会に初めて出席したが、校友会がどのような活動をしているところか分からず、また、理事として昨年度と今年度の事業、そして予算についても良くわからないままに承認することになり、承認したことについての責任を取ることができるか自信がない。

例えば、後援会については、3年生の会員が理事になることによって校友会の年間の流れも理解でき、審議にもスムーズに加わるのではないかと。(大宮理事)

- ◎ 校友会理事については、会則上必ずしも各団体の長をお願いしているわけではないので、理事の選出については各後援会で検討いただきたいと考えている。

なお、校友会事業を広く皆さんに理解いただくことはとても重要なことであり、そのために何か良いアイデア等があれば取り入れて行きたい。(事務局)

最後に、議長から、次の2点について説明があった。

- ① 次回の理事会は平成28年2月19日(金)を予定しているので、よろしく願いしたい。
- ② この理事会終了後、新委員による校友会専門委員会を開催するので、よろしく願いしたい。

【配付資料一覧】

- 山形大学校友会理事会 席次
- 山形大学校友会理事会（第18回）次第

- 資料 1 山形大学校友会理事・監事一覧（H27.6.24 現在）
- 資料 2 山形大学校友会専門委員会委員（案）
- 資料 3 平成26年度事業報告（各事業報告書添付）（案）
- 資料 4 平成26年度収支決算書（案）
- 資料 5 平成26年度監査報告書
- 資料 6 平成27年度事業計画書提出一覧（各事業計画書添付）
- 資料 7 平成27年度事業計画（案）
（校友会専門委員会における検討状況添付）
- 資料 8 平成27年度収支予算書（案）
- 資料 9 平成28年度以降の「継続事業」の取り扱い及び
事業評価方法等の検討に向けた整理メモ
- 資料10 山形大学校友会会則及び山形大学校友会専門委員会規程
の一部改正について（案）
- 資料11 校友会設立10周年記念事業の検討状況（中間報告）

[参考資料]

- 1 山形大学校友会会則（改正前）
- 2 山形大学校友会専門委員会規程（改正前）
- 3 「山形大学卒業生の皆さまへのアンケート」の様式
- 4 卒業生の「人財バンク登録事業」の活用について（通知）
- 5 「校友会メールマガジン第12号（6月号）」及び配信希望票
- 6 平成27年度校友会関係年間スケジュール
- 7 校友会理事会第17回（H27.2.13）議事録
- 8 校友会専門委員会第17回（H27.5.28）議事録
 - 山形大学 2015年度行動計画
 - 山形大学広報誌「みどり樹 vol.63」
 - 山形大学校友会入会案内 2015年3月発行
 - 山形大学校友会会報 No.5

※ 席上回覧 平成26年度事業実施による主な成果報告

- ① 2015 山大生が企業訪問に行ってきました
—山大生の企業訪問13社報告—〈資料3の番号1関連〉
- ② 平成25年度 短期派遣留学報告書〈資料3の番号7関連〉
- ③ カトリカ大学派遣プログラム学習報告書〈資料3の番号8関連〉
- ④ 修学支援事業報告書〈資料3の番号11関連〉